

はしがき

本書は、国連をはじめとする国際機構の入門書である。今日人類が直面する諸問題は、安全保障から経済、人権、環境、文化、交通、通信、衛生など多岐にわたるが、そのほとんどすべてにおいて、地球規模の、あるいは地域的な国際機構が、大きな役割をはたしている。紛争の平和的解決や人権・難民問題と取り組む国連、貿易や金融の分野で活動する世界貿易機関（WTO）や世界銀行、エボラ出血熱や鳥インフルエンザなどの感染症拡大の防止に努める世界保健機関（WHO）、世界遺産の指定と保護を推進する国連教育科学文化機関（UNESCO）など、私たちの生活に密接に関係する国際機構も少なくない。これらの国際機構が生まれた背景からその後の発展の歴史、さらには国際機構の組織構造やそこで働く人たちの採用や処遇、そしていろいろな分野で活動する国際機構の紹介とそれらが抱える課題を、わかりやすく解説することが本書の主要な目的である。

従来国際機構に関する書物は、国際法や国際政治学の専門研究書として、あるいは法学部や政治経済学部などの専門学部の専門科目の教科書として出版されてきた。それらはこれまで学問の発展に寄与し、受講する学生の知識向上に役立ってきた。

しかし、今日の人々の日常生活への国際機構の広範な浸透を考えると、国際機構に関する知識や情報は、一部の研究者や専攻学生の範囲に留めておくことは適当ではなくなってきた。新聞やテレビで特定の国際機構の名を目や耳にした人は、その機構の性格や活動についてもっと知りたいと思うに違いない。たとえば、世界遺産登録のニュースで UNESCO のことを知った読者は、UNESCO がどのような国際機構でどのような活動をしているのか、また、特定の文化財や自然が世界遺産に登録される仕組みや意義について、もっと知りたいと思うかもしれない。

本書はそのような一般の人にも分かりやすい国際機構の入門書として企画さ

はしがき

れた。したがって、一方では専門の学生にも役立つよう内容的に最新の情報を十分に取り入れることに努めたが、他方で文章はできるだけ平易にし、理解を助けるために各章の冒頭には簡潔な概要（「この章で学ぶこと」）を記載した。また、特定の事項を解説する「コラム」を適宜挿入し、章末には「参考文献」を、巻末には「さらに学びたい人へ」をあげた。本書を通して、国際機構に関する知見が深まるとともに、国際機構を身近に感じ、世界各地で戦乱や災害に苦しむ人々を救済したり、地球温暖化防止に取り組んだり、感染症の撲滅に貢献する国際機構の存在と活動を知り、さまざまなかたちで支援・協力する読者が1人でも多く出てくることを期待している。また、将来国際機構で働き、世界の平和と繁栄、人類の健康と福祉のために協力したいと考える人が1人でも多く出てくることを願っている。

ところで国際機構は、それ自身が発展途上にあり、日々変化するとともに、多くの組織上、活動上、法律上、そして資金や人材面の課題を抱えている。これらの問題の克服には多くの多様な研究者の協力が欠かせない。読者の中から、国際機構を、国際法や国際政治学からだけでなく、経済学、経営学、社会学、人類学、行政学などの社会科学全般、さらには生物学、物理学、化学、工学、海洋学、医学、薬学などの自然科学や宗教学、比較文化学、歴史学などの人文科学からも研究する人たちが生まれてくることを期待している。なぜなら、たとえばWHOが抱える課題の克服には医学、薬学、生物学などの知識が不可欠であるし、UNESCOの文化遺産、自然遺産の保存継承活動には、人類学、宗教学、比較文化学、歴史学などの分野からの分析が欠かせないからである。

本書の企画・編集にあたっては、法律文化社編集部の舟木和久氏の熱心なご協力とご支援をいただいた。ここに深甚からの謝意を申し上げる。

2016年1月15日

監修者

横 田 洋 三